

研究内容の紹介

記述式問題における無回答に関連する 要因の検討

—群馬県児童生徒学力診断テストデータの分析結果から—

日本テスト学会講演

2007年12月1日

名古屋大学

石井秀宗

研究の背景1

- PISAにおいて、記述式問題に対する日本の生徒の無回答率の高さが指摘された。
- 同様のことは、教育課程実施状況調査や、各地方自治体が実施した学力診断テストにおいても多数報告されている。
- しかし、いずれにおいても、記述式問題での無回答率の高さが指摘されている程度で、**どういう特徴の設問において、また、どういう児童生徒において無回答が多いか**という分析はほとんどなされていない。

研究の背景2

- 無回答率の高さを憂慮するだけで、原因把握や対策は現場任せ.
- 群馬県教育委員会が実施した「群馬県児童生徒学力診断テスト」の開発およびデータ解析に共同研究という形で関わる機会を得た.
- 国語の記述式問題について無回答と関連する要因を分析した.

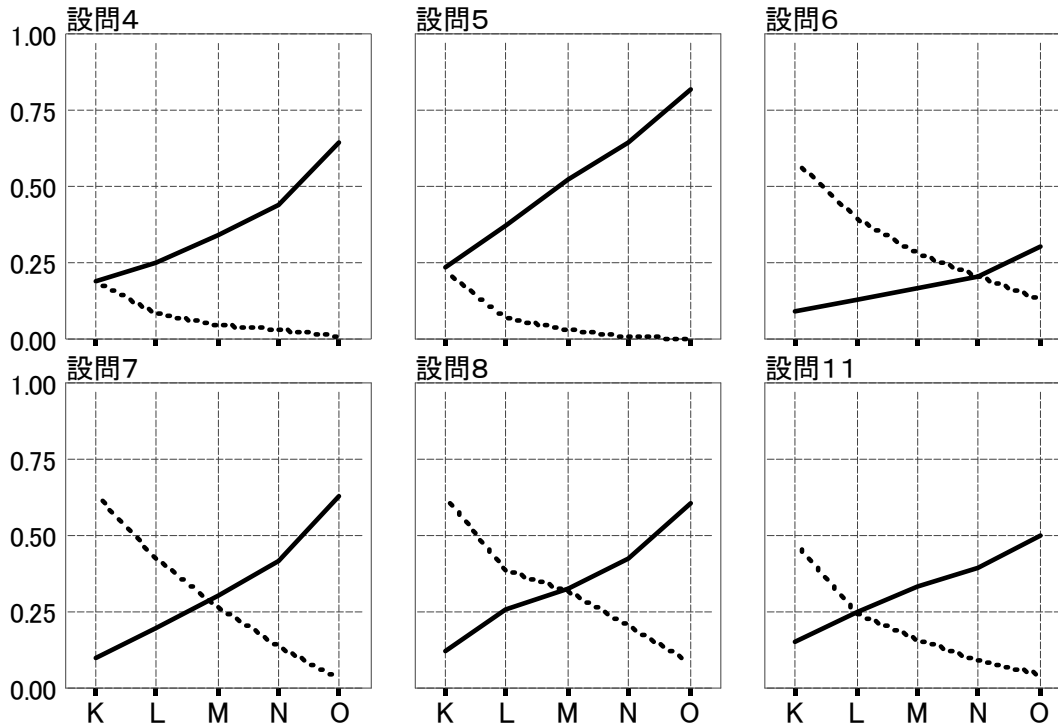
テストの実施概要

- 時期:2006年4月下旬.
- 対象:群馬県下のすべての国公立小中学校および県立の中等教育学校に在籍する小学6年生および中学3年生.
- 国語テスト実施校. 受験者数
 - 小学校 82校(24.05%). 5,137名(24.90%).
 - 中学校 38校(21.71%). 3,892名(19.72%).

国語テストの概要

- 説明文とそれに対する設問からなる。
(表1-1, 1-2参照)
- 小学校:11設問
記述式 7 選択式 3 他 1
- 中学校:17設問
記述式 8 選択式 5 言葉拔出 3 他 1

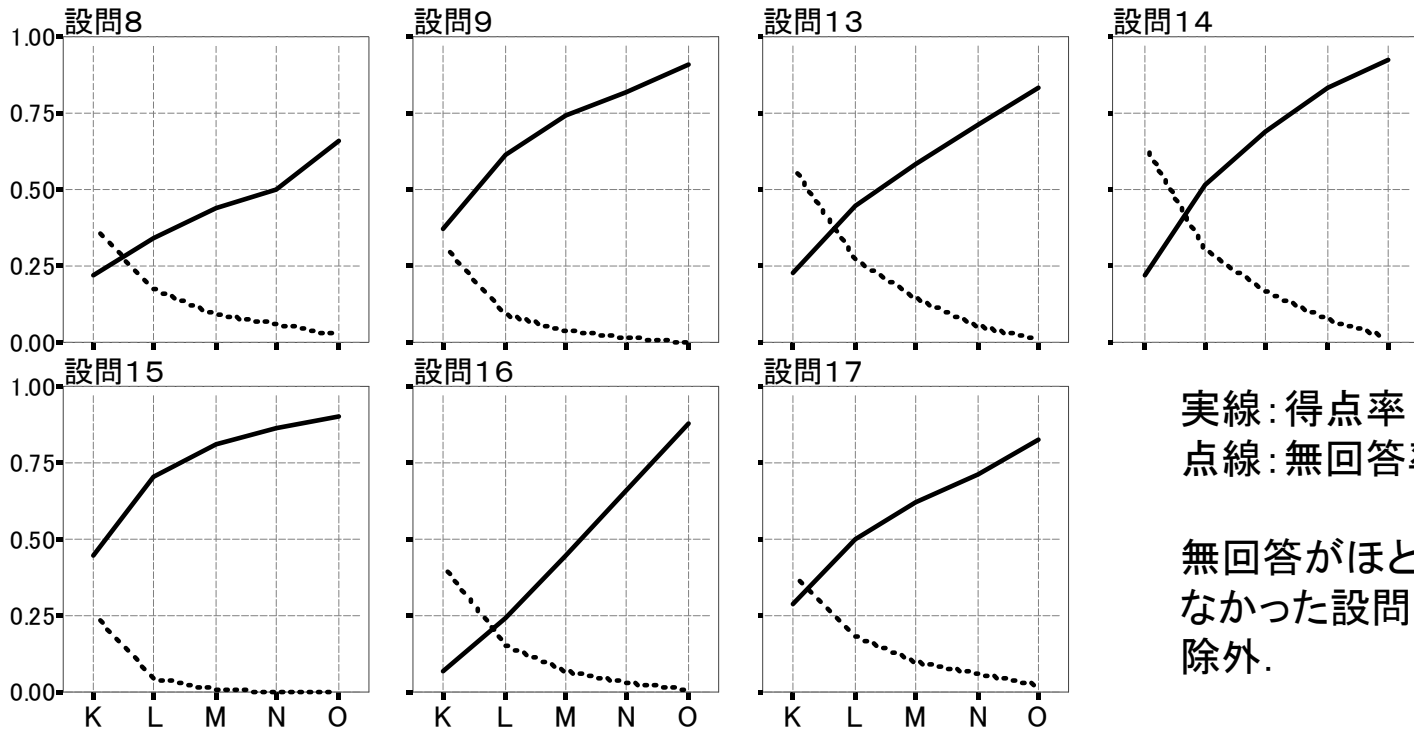
得点率と無回答率(小学校)



実線:得点率
点線:無回答率

無回答がほとんど
なかった設問1は
除外.

得点率と無回答率(中学校)



理由を書く設問の無回答率は低い

- 小学校の設問4は、設問7,8より得点率がやや高い程度であるが、無回答率は設問7,8が3割台なのに対し、設問4は1割以下と低い。
- 成績層別で見ても、最下位群の設問4の無回答率は2割以下で、設問7,8の5割強よりはるかに低い。
- 設問4は、内容を分ける段落位置を指定し、その理由を書く問題。
- 形式段落がはっきりしているため、どこで分けるにしても、**それなりの理由づけが可能**なので、無回答率は低くなっている。

「情報の取り出し」で能力差顕著

- 小学校の設問7,8と設問11を比較すると、平均得点率は同程度であるものの、設問7,8のほうが、**成績上位群と下位群とで無回答率の差が大きく、得点率の差も大きい。**
- 設問7,8は「情報の読み取り」、設問11は「表現力」に関する(要素を多く含む)設問であると考えられる。
- **表現力よりも情報の読み取りに関する設問において、合計得点が低いほど無回答率が高いという関係が強く表れ、群別の平均得点率の開きも大きくなる。**

質問紙調査

- テスト終了後, 授業に関する質問紙調査を実施
- 項目例

Q(1). 国語の学習で楽しいと感じるものはどれですか.

(いくつ選んでもかまいません)

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 物語の読み取り | 2. 詩を読んだり作ったりする |
| 3. 説明文の読み取り | 4. 作文を書く |
| 5. 話し合い(討論会など) | 6. 意見発表(スピーチなど) |
| 7. 漢字の学習 | 8. 言葉の決まり(文法)の学習 |

Q(9). 学校の授業全体についてたずねます. 学校の授業はどのくらい分かりますか.

- | | |
|--------------------|-------------|
| 5.よく分かる | 4.だいたい分かる |
| 3.分かることと分からないことと半々 | |
| 2.分からないことが多い | 1.ほとんど分からない |

学習活動の楽しさと無回答数の関連1

表5-1 設問への回答の有無と質問調査Q(1)各項目との関連

質問項目	反応	小学校			中学校		
		度数(比率)	10問あたりの合計無回答数の平均	10問あたりの平均無回答数の差	度数(比率)	10問あたりの合計無回答数の平均	10問あたりの平均無回答数の差
6. 意見発表(スピーチなど)	有 無	856 (.167) 4281 (.833)	1.54 2.27	-.73	337 (.087) 3555 (.913)	.86 1.51	-.66
3. 説明文の読み取り	有 無	632 (.123) 4505 (.877)	1.54 2.23	-.69	348 (.089) 3544 (.911)	.89 1.51	-.62
4. 作文を書く	有 無	1339 (.261) 3798 (.739)	1.68 2.31	-.63	623 (.160) 3269 (.840)	1.12 1.52	-.40
8. 言葉の決まり(文法)の学習	有 無	1123 (.219) 4014 (.781)	1.68 2.27	-.59	474 (.122) 3418 (.878)	1.32 1.48	-.15
2. 詩を読んだり作ったりする	有 無	2223 (.433) 2914 (.567)	1.88 2.35	-.46	1202 (.309) 2690 (.691)	1.33 1.52	-.19
5. 話し合い(討論会など)	有 無	1898 (.369) 3239 (.631)	1.86 2.31	-.45	1255 (.323) 2637 (.678)	1.22 1.57	-.36
1. 物語の読み取り	有 無	2196 (.428) 2941 (.573)	1.91 2.32	-.41	1845 (.474) 2047 (.526)	1.14 1.74	-.60
7. 漢字の学習	有 無	2536 (.494) 2601 (.506)	2.17 2.12	.04	1515 (.389) 2377 (.611)	1.58 1.38	.20

学習活動の楽しさと無回答数の関連2

- 差が大きい活動は，小学校，中学校ともに，
「意見発表(スピーチなど)」「説明文の読み取り」
- 無回答数の差が，中学校で拡大する活動，
「物語の読み取り」（しかも差の大きさ3位に浮上）
- 「物語の読み取り」を楽しいと感じる割合は中学校で
増加し半々に近づく。

「物語の読み取り」を楽しいと感じる力があるかどうか
は，記述式問題への無回答と関連する1つのカギ。

学校の授業が分かる程度と無回答数の の関連

質問項目	反応	小学校			中学校		
		度数(比率)	10問あたりの合計無回答数の平均	10問あたりの平均無回答数の差	度数(比率)	10問あたりの合計無回答数の平均	10問あたりの平均無回答数の差
Q(9). 学校の授業はどの程度分かるか	分かる	3816 (.743)	1.88	-1.03	2236 (.575)	.97	-1.13
	半々以下	1193 (.232)	2.90		1570 (.403)	2.10	

- 授業が分かる程度が半々以下の児童生徒の割合は、小学校よりも中学校のほうが大きい。
 - 無回答数の差は、小学校と中学校で同程度(中で高?)
- 小学生よりも中学生において能力差が大きい。

まとめ

- それなりに理由を書くことはできるので、理由を書く設問では無回答率低い.
- 文章や図から情報を取り出して記述する設問において、成績下位群の無回答率高い.
- 物語の読み取りを楽しいと感じる力が弱い児童生徒は無回答が多い傾向.
- 学校の授業が分かる程度が半々以下の児童生徒は無回答が多い傾向.

その後の展開

- PISAの問題項目は、いくなれば舶来品.
 - 思考力や表現力を測定しようとするテストとして、日本の教師が作成したテストを用いて国際比較をしたら、どのような結果が得られるだろうか？ PISAとの共通点、異なる点？
- 国際比較研究を進行中.

以上です